

西ノ京地生連だよい

平成 28 年 9 月

西ノ京中学校区地域生徒指導連絡協議会

地域・家庭・学校で 子どもたちを育てたい

西ノ京中学校

思い返すと、私たちの小さい頃は、近所に必ずいるおじさん・おばさんがいたものです。

「あのおっちゃんは怖い」「あのおばちゃんには逆らわんとこ!」「でも、大好き!」そんな方が地域に何人も居られた気がします。そして、きっとそんな方々の目や声掛けに支えられて、毎日を過ごしていたのだと思います。

「おはよう!」「この頃、涼しいなったねえ…」というようなあいさつから始まって、「頑張ってるか?」「学校どうや?」また、ちょっと辛そうにしていると、すかさず「どうしたん? しんどいんか?」そんな調子です。



地域のつながりや支えが薄くなつたと言われて久しいですが、この西ノ京には古き良き地域の姿が今

も息づいている気がします。

私自身、今年度からこの中学校に赴任してきましたが、多くの地域の方々に助けられ、仕事をしてきました。朝・晩通勤の際に、近所の方に会うたび、「教頭先生!」「慣れはりましたか?」「いつもありがとうございます」と声掛けをいただき、心和む思います。

核家族化により、子どもたちを支える目は昔にくらべて確実に減っています。私たち教員も、学校ではできる限り子どもたちに目を配るように、配慮していますが、十分ではありません。地域のおとの温かい支えがあって、初めて子どもたちはすくすく育つのだと思います。今こそ、西ノ京らしい地域のつながりを大切にしていた

だき、自分の子どももよその子どもも共に育つつながりが、学校も協力しながら作っていける…と考えています。

ぜひ、地域で子どもたちがよく知るおじさん・おばさんを目指してください。

(教頭 葛城 秀紀)

一人よりみんなで 点から線へ 朱二校 英語教育推進の取組

朱雀第二小学校

【教科化にむけて…朱二校では】

2020年、小学5~6年生では、英語が教科化され、3~4年生では外国語活動が始まります。2018年から先行実施となります。朱二校では、昨年度から英語教育改革に向けた準備に着手しました。今ある取組に少しだけプラスする、工夫する、広げる形で、学校一丸となって取り組んでいます。

【英語であそぼう、おまつりだ】

普段の外国語活動の学習で慣れ親しんだ英語表現を発展的に使う場をつくりうと考え、PTAの協力のもと、「朱二こどもまつり」で「英語であそぼう、おまつりだ」のイベントを企画しました。6年生と教職員、留学生のコラボで空き缶積みゲームコーナーを運営しました。当日に向けて、6年生は授業で、空き缶積みゲームを英語で楽しんでもらうための工夫や使う表現を考え、練習やリハーサルを重ねました。

「お客様が待っている間に説明をするといいんじや



ないかな?」「制限時間は何分にしよう」「ランキングを掲示して盛り上げよう」

「英語で励ます言葉を知りたい」など、子どもたちから積極的な意見が出されました。教職員は、当日子どもたちをサポートするための英語研修を行いました。

【6年生、大活躍】

最初は原稿を見ながら小さな声でおそるおそる説明していた子どもが、回を重ねていくと堂々と英語で司会ができるようになっていきます。How many cans did you get? One, two, three, …… Please draw a card. Yellow! You can get bonus point. Good job!

さすが6年生。下級生に気遣って、相手意識をもってゆっくりと話しかけたり、やさしく声かけをしたりしています。普段、フレンドリー活動で見せるのと同じ、6年生らしいリーダーシップを発揮していました。このゲームコーナーを来年度はさらに充実させていきたいと思います。

【めざすはこんな朱二っ子】

相手意識をもって積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする力は、変化の激しい社会を生き抜くために必要な力の一つと考えます。英語でも日本語でも「豊かな言葉の使い手」となる子どもを育てていきたいと思います。

「あいさつ」で地域の絆づくりを

朱雀第四小学校

急速に変化する現代社会において、いつの時代にも変わらず大切な「愛する心」を育み、これから社会の急激な変化にも柔軟に対応して、未来を生き抜いていく力を育てるために今年度の学校教育目標を「愛する心を育み、未来を生き抜く力を育てる～相手を尊重し、協働的に問題を解決する子どもの育成～」と設定しました。未来を生き抜く力の中でも、今年度は「相手を尊重し、協働的に問題を解決する子どもの育成」に重点を置き、「あかしや教育」の目指す子ども像を「あかしや」の頭文字をとって、次のように設定しました。

あ あいさつをする子
【自らあいさつができる子】

か かんがえる子
【あらゆる角度から、総合的に深く考える子】

し じぶんから行動する子
【課題解決に向けて主体的に活動する子】

や やさしい子
【人も環境も大切にできる子】

校長として本校に赴任し、4ヶ月が過ぎました。子どもたちはよく話を聞き、学級も落ちています。しかし、毎朝校門に立っていて感じることは、挨拶の声が小さいこと、自分から主体的にという面が弱いことです。そのためあかしや教育の目指す子ども像の最初の「あ」は「あいさつをする子」にしました。自ら進んで相手にしっかりと届く声で目を見てあいさつができる姿を目指しています。

うれしいことに、6月のあかしやタイムであいさつについて子どもたちからの主体的な動きがありました。児童会本部の「目指せ!あいさつマスター!」の取組です。毎朝、児童会本部の子どもたちが玄関に立ち、あいさつマスターになるための5つの秘訣(大きな声で顔を見て笑顔で自分から心をこめて)を画用紙に書いて持ち、みんなにあいさつを呼びかけながら、各学年のあいさつマスターを探しました。その効果はすぐにあらわれてきました。あいさつの声が日ごとに大きくなり、目が合う人も増えてきました。自分からできる人も増えてきました。笑顔で、心をこめてあいさつができる人はまだ少ないのですが、笑顔で、心をこめてあいさつができると、いろいろな人とつながる可能性も増えていきます。さらに継続して「あいさつマスター」を目指してほしいと思います。

そして、夏休みに入る直前の朝会で各学年一人のあいさつマスターが選ばれ、認定メダルが授与されました。この取組はとても効果があつたので、是非、第二回、第三回と継続してやつてほしいと思います。あいさつマスターになるための5つの秘訣を全て出



(裏へ続く)

(表より)

来るようになって、あいさつマスターをどんどん増やしてほしいと思います。

「目指せ！あいさつマスター！」の取組おかげで、地域の方からも最近子どもがあいさつをしてくれるようになったといううれしい声も聞いています。あいさつを通して、地域の絆を深める第一歩となればいいなと思います。そのためには、大人も進んであいさつをして、子どもたちのお手本になることが大切です。わたしも自らの姿で子どもたちに教えられるようこれからも挨拶を毎朝がんばって継続しようと思います。



(校長 平野 智洋)

笑顔が集まる学校に ～地域・PTAとともに～

朱雀第六小学校

朱雀第六小学校では、学校目標を「ともに学び、自らを創りだす朱六の子～笑顔が集まる学校～」として、その達成に向けて、本年度のスローガンを『笑顔』と『自分から・自分で』と定め、日々の教育活動に取り組んでいます。どの学校にもいえることなのかもしれません、新しく異動してくる教職員が多かったり、若い教職員が増えたりする学校現場においては、その学校のもつ特色や伝統が薄れてしまうこともあるのかもしれません。そんな中で、本校では地域の方々が授業に積極的に協力してくださったり、様々な行事を計画し実施してくださったりしていることによって、その学校らしさが保たれているように思います。

今年度も、様々な取組をしていただいております。その一部を紹介させていただきます。

5月14日（土）PTAクリーン大作戦

PTAの方々を中心に、校内にある朱六の森辺りの草抜きをしました。とても暑い日でした

が、参加した子どもたちも頑張り、とてもきれいになりました。おやじの会の方々は、ふれあい広場のテーブルに防水塗料を塗って補修してくださいました。

6月4日（土）土曜参観（1年…交通安全教室、4年…自転車教室）

中京警察署の署員さんやスクールサポーター、京都ロイヤルライオンズクラブ、地域の方々に来ていただき、子どもたちの安全のために土曜参観の授業に協力いただきました。

6月11日（土）パン焼き教室・お茶会

少年補導委員会の方々によるパン焼き教室、朱六女性会の方々によるお茶会は、毎年子どもたちにたいへん人気のある行事です。たくさんの笑顔があちこちで見られ、地域・保護者・子どもたちが触れ合う場となっていました。



（校長 平野 智洋）

7月2日（土）グランドゴルフ

朱六体育振興会の方々によるグランドゴルフ大会にも、たくさんの子どもたちが参加していました。コツを教えていただき上手にできるようになって、汗びっしょりになりながら笑顔いっぱいに楽しむ子どもたちの姿が印象的でした。



その他にも、町別児童集会では、中京警察の署員さんや地域の方々に協力をいただき防犯教室や

「こども110番の家」を尋ねる活動をしました。6年生の社会科では、文化に触れる体験学習として、朱六女性会の方々にふくさの扱いを教えていただき自分たちでお茶をたてる「お茶会」に協力いただきました。



このように、子どもたちのために取り組んでいただいたことがあります。この朱雀第六小学校に通う子どもたちが楽しく安全に、そして笑顔いっぱい

に過ごしていくようにいろいろな取組をしていただいたことにたいへん感謝しております。

また、夏休み明けから年度末にかけては、面白理科教室や剣道体験・クリスマスリース作り・もちつき大会・もち焼き体験などを実施していただく予定です。子どもたちも教職員も楽しみにしていますので、これからもよろしくお願い致します。

暑い中、大変お世話になりました

朱雀第八小学校

朱八校では、学校・PTAを中心に、地域の各種団体の皆さんのご協力を得て、夏休み明けのまだまだ暑い日に、2つの活動を行いました。

まずは、夏休み明けの初日、8月25日（木）に行なった「クリーンプロジェクト」。

PTAの呼びかけで地域の各種団体の方々にも協力を依頼し、学校内の教室や特別教室を中心に清掃活動を行いました。



前年度からの、『（子どもも+教職員+PTA+地域団体）のオール朱八で取り組む活動にしよう。最初の輪は小さいけれど、ひとりでも多くの参加によってその輪が広がっていく。子どもと一緒にになって活動することで様々な気づきがあり、それを各家庭でも話し合える場ができ、家族としての思い出、そして地域の財産となれば』という熱い思いを引き継ぎ、まだ残暑の厳しい中、大人も子どもも一生懸命に掃除をしました。

参加していただいた方々からは「今年も参加できてよかったです。」「これを機に子どもたちが普段の掃除も頑張ってくればいいですね。」「きれいにできて、気持ちがよかったです。」「夏休み明けの初



日に掃除をするのはいいことですね。」という声をいただきました。子どもたちからも「みんなで頑張って楽しか

ったです。」「教室がきれいになって気持ちがいいので、勉強も頑張りたいです。」「いつもの掃除より頑張りました。」という声が聞かれました。

2つ目は、9月10日（土）に行ったPTA主催の「運動場の土入れ」です。今年度は、体育施設開放委員会とタイアップして、体育館横の側溝の掃除もしました。

PTAのテニス部・バレー部・サッカーチーム、体育振興会の各クラブや少年野球クラブ等、今年で3年目になる取組に、過去最高となる多くの方が集まってくれました。

一年間で雨風により流れてしまった運動場の砂を、毎年運動会の練習が始まるこの時期に入れてもらっています。3年目ということで、手際よく作業が進みます。山積みになっている土をバケツに入れる人、それを運んでまく人、ブラシでならす人。大きな山がすこしづつ小さくなっています。たくさんの子ども達も手伝って、予定よりも早く運動場全面に砂を敷き詰められました。

体育館横の側溝の掃除は、何年間もしていなかったということで、重い溝蓋を開けると、すぐ下まで土が溜まっていました。長年積もっていた土をスコップなどで取り出しました。みんなで力を合わせて土を取り出していただいたおかげで、見違えるほどきれいになりました。きっと水はけもよくなり、運動場も今まで以上に使いやすくなると思います。



この活動を通して、子どもたちが普段の学校生活でも学校を美しくしていこう、運動場を大切に使っていこうという気持ちを持ったと思います。また、保護者や地域の方々と触れ合う機会が持たることは、ただ一緒に活動するだけでなく、地域の方々のお顔を覚え、地域行事に積極的に参加することや、学校外で出会ったときに挨拶することにつながればと思っています。

本当に暑い中、お世話になりました。ありがとうございました。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で「**地域と共に活動・貢献**を実践しましょう！」

